

われ、徳川氏に身方し、その功によつて、天草四万石を加増され、十二万三千石の大名になりました。然し二代堅高の時、天草に、天草四郎等キリシタン信者の乱が起り、天草富岡城にいた城代三宅藤兵衛は至急唐津に援兵を求めましたが、何うしても、農民側が強くて勝てません。遂には幕府から松平信綱が来、鍋島、堀川、黒田の雄藩まで出て、漸く鎮定しました。この騒動のために堅高は、天草四万石を削られ、天草を失つてしまいました。

(唐津の人物)

寺澤志摩守十高

今から三百五十年前、秀吉征韓の役后、当時此の地方を領有していた波多三河守に代り、唐津に城を造り、街を作つた人が、志沢志摩守です。即ち唐津城初代城主で、勤勉、奢侈を戒しめ、河川の改修、鑿田開拓、防風林の施設をやり、警く可き治績を上げた名君で、吾々も多分にその恩恵を蒙つてゐる訳です。

安田作兵衛

安田作兵衛は明智光秀の三羽鳥の一人と云われた勇士で、本能寺の変では、森蘭丸、織田信長を刺した人ですが、山崎の合戦で光秀が敗死した後、姓名を天野泳右工門と改め、流浪していたのを、寺沢志摩守が、家来として抱えました。安田作兵衛は唐津で亡くなり、墓は、淨泰寺にあり、本能寺の変で信長を刺したと云う種も、此の寺に傳つております。

幡隨院長兵衛

幡隨院長兵衛は、波多三河守の小姓をしていた嫁本伊織の子伊太郎が長じて江戸に出て町奴になつたと伝えられます。父嫁本伊織は三河守没落後、寺沢志摩守より切に懇望されて、志摩守の臣となり、唐津城の築城の時人足奉行として大いに働きました。

義民富田玄治

唐津城主水野忠任は三河國(今の愛知縣)岡崎から移つて来た殿様でしたが、入国以來天災多く、十年に及ぶ立派な鏡神社は焼失するし、一方農民の税金を引上げ、民心は水野氏の政治のやり方に非常な不満がありました。遂に不満が爆發して、明和八年七月(約二百年前)二万三千の領民が虹の松原に集まり、城主に課税軽減の懇願を致しました。その時承配を振つたのが、平原村の庄屋富田玄治で、農民の要求は殆んど聞き届けられました。然し、その指導者の調べが最重になり、富田玄治外三名が、自分等四名の責任だとして訴へ出て、西ノ浜で死刑になつた有名な百姓一揆であります。

近松門左衛門

淨瑠璃作者として有名な近松門左衛門は、幼少の折、近松寺に届たことがあると伝えられ、後京都に上り、淨瑠璃作者となり、大阪で亡くなりました。近松の墓は関西に二ヶ所、この近松寺にあるものと三ヶ所にあることになつていますが、眞疑の程はわかりません。

小笠原赤岐守長行(小笠原氏唐津初代藩主長昌の長子)

文政五年唐津城に生れ、二十一才の頃江戸に出で大いに文武の道を励まれ、三十六才の時再び唐津に帰つて藩政を見られました。然し安政末頃は国事多端で、徳川幕府は、公の偉杖を